

金屋子神・金屋子神社

金屋子神社は、たたら製鉄の守護神である金屋子を祀る総本宮である。1700 年代後半になると、中四国（現在の広島県、岡山県、島根県、鳥取県、山口県）の鉄工業者の間で、この神への信仰が広まった。ここに展示されているのは、1791 年、1807 年、1819 年に神社を修理するために寄付された記録である。

18 世紀の『鐵山秘書』によれば、金屋子は天神の国から播磨国（現兵庫県）に降臨した。白鷺の背に乗り、適当な住居を探し求め、現在の和光美術館の南西約 35km の山中にある桂の木に降り立った。その頃、安部正重という男が山で狩りをしていて、金屋子の登場に驚いた。彼女は安部に神社を建てるよう命じ、たたら製鉄を教えた。その神社は現在、安来の広瀬地区にある。

金屋子は、自分の容姿に不満があり、他の女性に嫉妬する、特に気難しい神としてよく描写される。実際、金屋子の機嫌を損ねないよう、女性は製錬中に炉に近づくことを禁じられていた。ま彼女はキツネに乗った姿で描かれることもある。